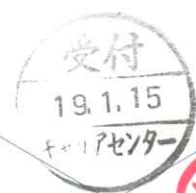


どの時代も勝ち残る
本物のリーダーに
ならないか。

ソフトウェア情報開発株式会社



まずは立ってほしい。
30歳までに
プロジェクトリーダーという
スタートラインに。

あなたはきっと知らない。IT業界は、まだ生まれて間もないということ。60年あまりしかない歴史の中でも、世の中を驚かせた数々のイノベーションが生まれてきたことを。時代が変われば、社会から求められるものも変化する。だからこそ、私たちは変化に強い組織であることを大切にしています。創業から40年以上貫いてきたのは「一流の中堅企業」であり続けること。あえてエンドユーザーと直接取引はせず、大手SIerとパートナーシップを組み大型のプロジェクトに参画。その中心に立ち、プロジェクトを推進してお客様のビジネスを成功に導くのが私たちのミッション。言われたことをただこなすだけではなく、ときには営業や提案、プロジェクトメンバーの人事に至るまで、すべての権限を駆使して陣頭指揮をとります。対等に意見を交わすのは決して簡単なことではありませんが、それを実現できたときあなたはきっと、世の中から必要とされるプロジェクトリーダーのスタートラインに立っているはず。さあ、走り出す準備はできていますか。

EPISODES

エピソードで見るソフトウェア情報開発

01 目指すのは 時代の変化に勝ち残る プロジェクトリーダー

一般的にプロジェクトリーダーといえば、プロジェクトの統括・運営が主な仕事。しかし、ソフトウェア情報開発のプロジェクトリーダーは課題解決の提案や金額交渉といった営業的側面や、プロジェクトメンバーの管理や育成といった人事的側面に至るまで大きな裁量権を得ています。プロジェクトの全権限を持つということは、ひとつの会社を経営することと同じ。大きな責任が伴うからこそお客様と深い信頼関係を築き、付加価値のある存在になれるのです。目指してほしいのは、時代の変化に勝ち残ることができるプロジェクトリーダーです。



02 一流中堅企業 としてのこだわり

エンドユーザーと直接取引はせず、大手SIerとパートナーシップを組んでプロジェクトに挑んでいます。なぜなら、コアパートナーとして頼られることで、大型プロジェクトに参画できるだけでなく様々な案件を通じて技術やマネジメントといったサービス力を磨くことができるから。会社として幅広いサービス力を培うことで、社員自身がやりたいことを実現できる環境を整えています。

03

お客様と築く深い信頼関係

1973年の設立以来、ソフトウェア情報開発はお客様と向き合うことを第一に考えてきました。お客様の結果にお客様以上にこだわるからこそ、時には意見がぶつかることもある。そんなひたむきさや本気で取り組む姿勢があったからこそ信頼を得ることができ、数あるIT企業の中でもこれだけの歴史を積み重ねてこられたのです。

04

「独立系×非上場」だからこそ チャレンジできる環境

幅広い業界・業種に対してサービスを提供できる独立系ならではの自由度の高さ。そして非上場だからこそ「どうしたらお客様に喜んでもらえるか」という考えに沿って、一貫した会社経営を続けられるため、常に真のパートナーとしてお客様に寄り添うことができます。こうした強みを存分に発揮し、若手社員も様々な場面で積極的にチャレンジできる環境があります。



「私に任せてください」

チームの責任者は

入社半年の新入社員

INTERVIEW

01

Hiroki Kawase


川瀬 大樹

システム本部 チームリーダー
2014年入社

他社よりも高いレベルのプロジェクトリーダーになれると思いソフトウェア情報開発に入社。現在は大手Slerの社内向けシステムプロジェクトに参画しながら、チームリーダーとしてプロジェクトリーダーに必要なマネジメントスキルも培っている。

他の会社で求められるレベルよりも、ソフトウェア情報開発のプロジェクトリーダーは一段上のことを求められると感じました。それは、お客様との接し方や、技術レベル、仕事への取り組み方すべてを含めて。だからこそ、ここで働いたら早いスピードで成長ができて市場価値の高いエンジニアになれると思ったんです。もともと私は最初の案件配属の際、チームリーダーの下でシステムエンジニアとしてプロジェクトに参画する予定でした。しかし、これからのIT業界を生き抜くための強さを早く身につけたかった。そのためには、私自身が組織を牽引していく力を身につけなくてはならないと考え、入社して半年に満たない新人だったにもかかわらず、プロジェクトの1チームを任せてほしいと伝えたのです。その結果、チームの責任者としてチャレンジさせてもらえることになりました。チームのマネジメントは簡単

なことではありませんが、ソフトウェア情報開発には手をあげれば任せてもらえる環境と、背中を押し、支えてくれる上司の方々がいます。その環境を存分に活かして、今後も業界を生き抜くための強さを身につけていきたいです。



間違っていることを

間違っているといえる

その関係性こそが

本物のパートナー

INTERVIEW

02

Shinichi Matsunaga

松永 真一

システム本部 プロジェクトリーダー
2006年入社

現在は大手カード会社の社内向け・顧客向けシステムや、銀行のインターネットバンキングシステムを含む3つのプロジェクトを管理。国内の遠隔地で開発をする「ニアショア開発」の責任者も担っており、月に数回は札幌に向いている。

言われたことだけをこなしてお客様のいいなりになることと、パートナーとして同じ方向を向くことは大きく違います。私たちがこの規模で大手Sler様とパートナーシップを組める理由、それはしっかりと意見を伝えることができるから。作業をするだけなら、私たちがなくてもいい。ソフトウェア情報開発に求められているものは、真のパートナーとしてプロジェクトを完遂まで導いていくリーダーシップ。そのためには、プロジェクトが間違った方向に進んでいったらそれを直すことも必要。お客様相手にそれを伝えるのは勇気がいるかもしれませんが、お客様とパートナーを超えた対等な関係性を長年築けてきたため、コアパートナーとして実績を積み重ねることができています。どんな状況でも逃げずに向き合い、真正面から議論する。そうすることでお互いに到達できる着地点が高くなる。お客様とその先にいるエンド

ユーザーである金融会社様のため、社内外のメンバーと意見交換をしながら、客観的視点を持ってプロジェクト全体をマネジメントしていく。これがソフトウェア情報開発のプロジェクトリーダーに求められることです。



QUESTIONNAIRE

社員の声で見るソフトウェア情報開発

Q 入社の手決めは
どんなところ？

最も多かった回答

成長できる環境

- 競合他社と比較して若いうちからレベルの高い仕事を体験できる機会が多いから
- 様々な業界のシステムに携わることができるから
- 若いうちから経営感覚を身につけることができるから

そのほかにも、「親身に就職活動の話聞いてくれた社員が多いという人柄のよさ」「歴史の長さとそこで築いてきたノウハウの豊富さ」といった回答も多く出ていました。

Q 休みの日は
何をしている？



各々で充実した休日を送っています。仕事と休日メリハリをつけて過ごせるように、ワークライフバランスの向上も目指しています。

Q 自社ならではの
イベントといえば？

- 1位 親子会
- 2位 GC会
- 3位 定例会

ソフトウェア情報開発には、社員同士のつながりを深める独自のイベントがあります。先輩社員1名が「親」となり、新入社員3-4名ほどを「子」としてひとつのグループを形成し、1年間仕事の相談からプライベートの相談までできる親子会。月に1回、プロジェクトを超えて勉強会や事例の共有、スポーツや飲み会なども企画し実施するGC(Good Company)会。経営層からのメッセージ、組織の状況や取り組みを共有する定例会などもあります。このようなイベントを通じて様々な社員との交流を深め、見識を広げることができます。



Q 印象に残っている
社員旅行先は？

最も多かった回答

バリ

定期的実施している社員旅行。社員の回答は、タイやオーストラリアなどを大きく引き離して圧倒的にバリが人気でした。社員旅行は東京・大阪から全社員が集まる貴重な行事です。皆さんが入社された際の行先はどこになるのでしょうか？

Q 入社してからの
ギャップは？

最も多かった回答

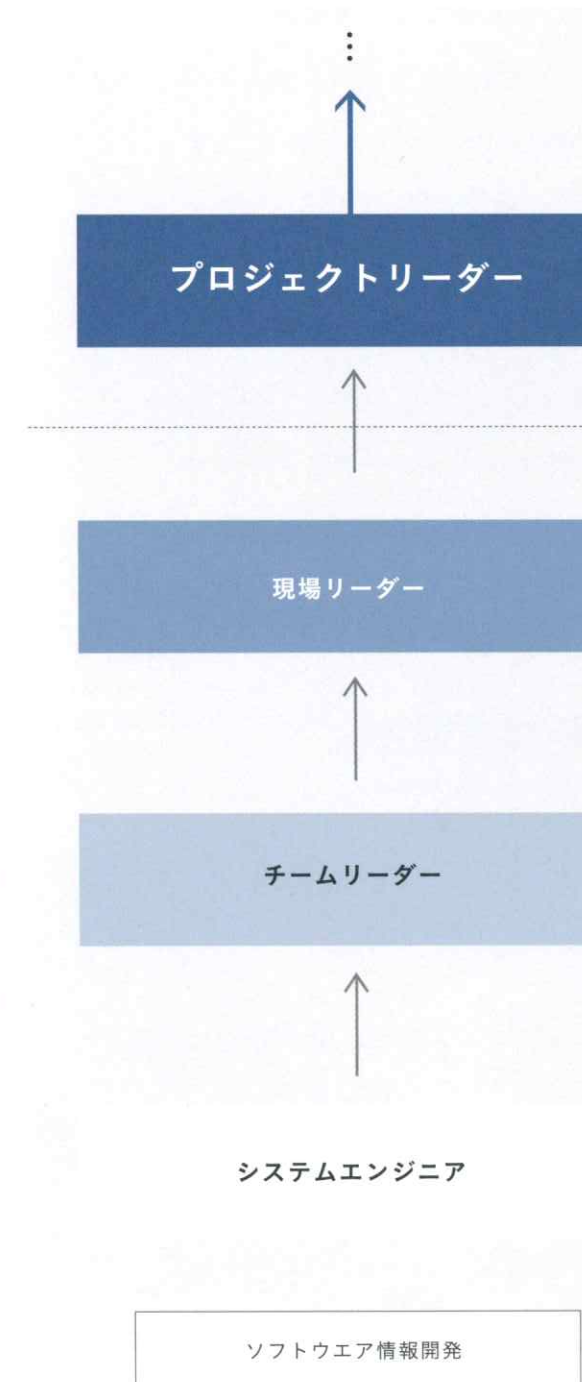
思った以上に経営者との距離が近い

専門部署制をとっていないため、会社規模が大きくなっても経営陣や役員との距離が近く、経営者の想いや言葉がダイレクトに伝わるのが特徴です。もちろん社員同士の距離も近く、新たなコミュニケーションを生むきっかけにもなっています。

CAREER STEP / TRAINING SYSTEM

キャリアステップ・研修

プロジェクトリーダーとして 立ち上がるための道筋は整えました



入社してまず目指すのは、プロジェクトリーダーとして1人前になること。ただ、あくまでこれはスタートライン。ここから先がプロジェクトリーダーとして真価が問われるところです。

社内研修

毎年、社長が中心となって内容を企画し、研修講師をも務める社内研修では、プロジェクトリーダーになるための要素が詰まっています。社員が年代別に集まり、一年間の業務実績の振り返りと、今後の行動計画や成長プランを同期社員や経営陣の前でプレゼンテーションをします。対顧客視点を交えて内容を企画・準備することでお客様のニーズを見極める力や本質を突いた提案力を養います。

外部研修

1年ごとに1人につき10万円までの研修受講費の補助金が支給されます。業務内容や、今後のキャリアプランに必要な研修を自分自身で考え、選んでいきます。いま足りないサービス力は何かを自問し自己研鑽し、プロジェクトリーダーを目指します。

新入社員研修

2か月間、集合型研修としてマナー教育・技術教育を経た後は、1か月OJTで実地経験を積み重ねていきます。研修はもちろん、現場でも全社員で新入社員を育て上げる社風があるからこそ、早い段階からエンジニアとして高い水準に達することができます。

先読みできないIT業界。だからこそ 老舗企業になることが強みになる。

大手SIerから直接声をかけていただき、メンバー数が100名を超える規模のプロジェクトに携わることができている私たちですが、いまこそ第二の創業期であると感じています。現在の信頼と実績は、まぎれもなく創業来の社員が積み重ね、築いてきた財産です。しかし、そこに頼るだけではこれからの時代を勝ち残ることはできない。求められるのは時代のニーズを見極め、ときには得意分野を変えていくことさえいとわれない柔軟性です。真のパートナー企業としてお客様の課題に深く切り込み、私たちにしかできない提案を生み出していく。ソフトウェア情報開発に声をかければ、共に悩み、解決に向けてあきらめずに歩んでくれるという期待に応えていく。それがブランドとなり、サービス力につながるのです。第二の創業期もターニングポイントにすぎません。次は100年企業を見据えて、IT業界の老舗企業を目指します。

ソフトウェア情報開発株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂2-5-27 SKIビル TEL/0120-29-5001(採用直通)

<http://skig.co.jp/>

SKI本社 (SKIビル)



東京メトロ千代田線「赤坂駅」2番出口より徒歩2分
東京メトロ銀座線・南北線「溜池山王駅」10番出口より徒歩5分
東京メトロ丸ノ内線「赤坂見附駅」ベルビー赤坂出口より徒歩5分

赤坂オフィス (SKI赤坂ビル)



東京メトロ丸ノ内線・銀座線「赤坂見附駅」A出口より徒歩5分

大阪支店 (大阪三井物産ビル13階)



京阪中之島線「浪速橋駅」7番出口より徒歩3分
京阪中之島線「大江橋駅」1番出口より徒歩3分
地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」1-A出口より徒歩3分
地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋駅」7番出口より徒歩5分